

Gender and Party Discipline: Evidence from Africa's Emerging Party Systems

Amanda Clayton and Pär Zetterberg

American Political Science Review, Vol.115, No.3, 2021, pp.869-884

女性国会議員は政党の方針に従順だろうか？ もしそうだとすれば、はたして彼女らは真の意味で「女性を代表している」と言えるのだろうか？ Clayton と Zetterberg は、アフリカ 17 カ国の議員 805 名を対象としたサーベイデータ (Africa Legislatures Project) を使ってこうした問いに答えている。まず、「所属政党の方針に従って議会で投票しているか」など 6 つの項目を使った分析で、女性議員の方が男性議員より所属政党に従順であることが示された。

ただ肝心の問題は、「なぜ女性議員が政党に従順なのか」という点だろう。第一のメカニズムとして著者が挙げているのは、候補者選定における性差である。すなわち、縁故主義が強いアフリカにおいて、女性が議員になる道は限られている。そのため、女性議員は人脈の狭さという弱点を補うために、政党への忠誠を誓う。一方、男性は縁故など独自の人脈を持ち、政党に依存せずとも選挙を戦うことができる。結果、女性議員は男性議員より政党に従順となる。

第二のメカニズムとして、性役割との一致がある。「女性は従順であるべきだ」という固定観念がある場合、そうした性役割から乖離した行動は、より強い反発を引き起こす。そのため、女性が政党に反旗を翻すと、性役割と一致しない行動とみなされ、男性が同じ行動を取った場合よりも強い反発（得票の減少や政党による処罰）を引き起こす。こうした反発を避けるため、女性議員は政党に従順にならざるを得ない。実際、女性は議会で発言を控える傾向にある。また、男性議員の積極的な発言は後の選挙で得票を増やすが、女性議員について同様の傾向は見られない。

こうした政党に従順な女性議員は、女性の政治参加を考える上で重要である。実際、政党に従順な女性議員は、女性の権利を重要な政策課題と考えない傾向にあり、その態度に男性議員との差はない。政治機会の格差や固定観念がある中で、女性が議会で席を得たとしても、女性の意見が反映されるとは言えず、女性の実質的な政治参加が達成されたとは言い難い。Clayton と Zetterberg は以上の点についてデータを使って示し、加えてナミビアの元議員や専門家らへのインタビューで傍証している。

この論文の強みは、アフリカの女性議員に着目し、ユニークなデータを使い、メカニズムを丹念に理論化した点にある。政治学で女性の政治参加に注目が集まっているが、アフリカを例に取り実証した研究は少ない。一方、個々のデータ分析には粗さも見られる。因果関係を厳密に分析しているわけではなく、メカニズムについても間接的な証拠が示されているに過ぎない。新しいトピックとデータを世に示すタイプの研究であり、より緻密な分析は今後の課題と思われる。

菊田 恭輔 (きくた・きょうすけ/アジア経済研究所)

